

製造品の企業内取引の把握と集計上の取扱いについて

製造業の企業においては、部品工場から完成品組立工場への部品供給のように企業内取引が存在しているものと考えられている。

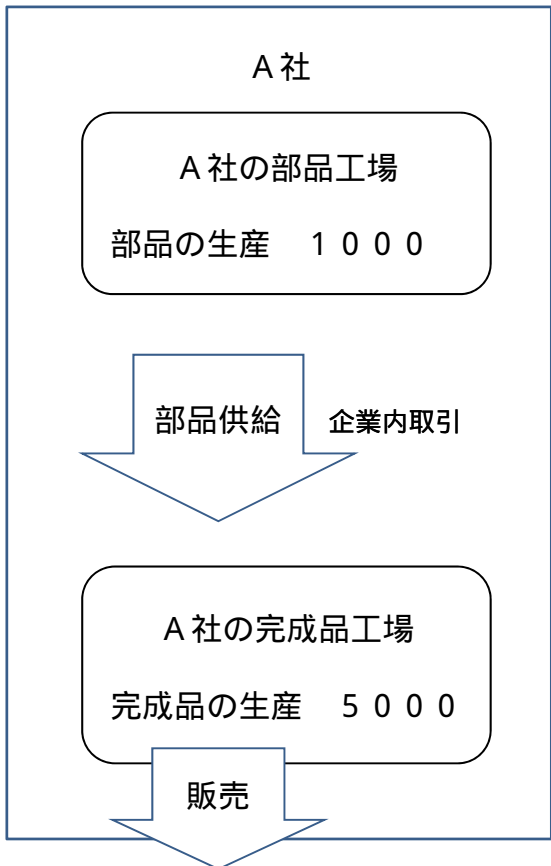
活動調査においては、経済の構造を全国的及び地域別に明らかにすることを目的としていることから、事業所単位に経済活動を把握することを原則としているため、この企業内取引を含めて把握、集計することになっている。具体的には、事業所調査票において自社の他事業所に引き渡した製品について市価換算して品目別の製造品出荷額を把握することとしている。一方、企業全体については、売上と費用から付加価値を算出する観点から、企業調査票において内部取引を除いた売上高とそれに見合う費用総額等を把握することとしている。これらは、それぞれの目的が異なることから、別々の集計表として扱うが、事業所の製造品出荷額の集計値から企業の売上高の集計値を差し引くことで、既存統計では把握することができなかったマクロレベルでの企業内取引の概数把握が可能と考えている。

前回の部会審議において、この企業内取引について、さらに事業所別、品目別に自社向け出荷割合を把握すべきとの意見があり、今回の活動調査後はどういう問題を含んでいるのか検証することが今後の課題とされたところ。

製造事業所における自社向け出荷割合を品目別に把握することについては、製造業の産業構造の把握、産業特性の把握の観点から一定の意義があるものと認識しているところ。他方、この企業内取引については、今回の活動調査の結果において初めて明らかになるものであることから、今後、第1回の活動調査結果から我が国経済の中でどの程度の規模を有しているのかなどの分析を行う予定である。さらに、個別企業の実態把握等も行い、企業内取引を事業所別、品目別に把握することの報告者負担と経済センサスという全数調査での役割等の観点から、その把握についての問題点等を整理したい。

製造品の企業内取引について

生産構造
 A社の部品工場は、部品を生産し、
 自社向けに供給
 A社の完成品工場は、供給を受けた
 部品で完成品を生産し、販売



活動調査の集計

従来の集計

事業所	出荷品目	出荷額
部品工場	部品	1000
完成品工場	完成品	5000

1000

企業	事業内容	売上高
A社	製造事業	5000

100%
0%

事業所別、品目別で把握

活動調査における企業内取引の集計表
 事業所集計表では、部品工場は部品を外部に出荷した形で表章（上左表）
 （企業内取引を含めて表章することは意義がある）
 （企業内取引の記入漏れ防止策を措置）
 企業集計表では、企業内取引された部品分は計上しない形で表章（上右表）
 企業集計表と事業所集計表の差分で、企業内取引の概数を把握（上中表）
 （企業内取引の規模の把握が可能）
 企業内取引を事業所単位、品目単位で把握できないか（上右表）

企業内取引を事業所別・品目別に把握する上での問題点の整理方法

- ・平成24年経済センサス 活動調査の結果を利用した分析検証
- ・個別企業の実態把握、分析検証
- ・全数調査としての役割、記入者負担等から問題点を整理